

平成29年10月4日

行政政策学類生が快挙！！ 日本数学教育史学会学会誌『数学教育史研究』に 査読付き論文掲載決定

本学行政政策学類生が、日本数学教育史学会学会誌『数学教育史研究』第17号に論文を投稿したところ、学会編集委員会による精密な査読審査を経て、「研究論文」として掲載されることとなりました。

査読付きの論文掲載は、その分野の専門家の評価や検証を経るため、内容に誤りが認められず、かつ新規性があるものとされ、研究業績として認知されるものです。学士課程在学中に投稿論文が学会誌に掲載されるのは、極めて稀です。

さかもとなおふみ
阪本尚文行政政策学類准教授が指導する同学類法学専攻4年のこんのしょうた今野翔太さんの論文が、日本数学教育史学会学会誌『数学教育史研究』第17号に「研究論文」として掲載されることとなりました。

今回掲載が決定したのは、「『藤澤セミナー』再考 数学教育史と大学史の架橋の試み」と題した論文です。藤澤利喜太郎（1861 - 1933）は（東京）帝国大学理科大学数学教室の二代目の教授です。本論文からは次のような知見が得られました。藤澤がドイツ留学後に始めた「藤澤セミナー」は、当時の日本の大学において新しく、かつ後代まで続く画期的な教育の始まりであること、藤澤にはドイツ的な「学問の自由」観と学術上の「研究志向」の位相があること、藤澤の教育を、教育の形式を支える思想のレベルから捉え直すことにより、初等・中等教育と高等教育との教育思想上の一貫性があること、ドイツ流の教育・研究方式である「研究と教育の統一」等の試みが、いわゆる「フンボルト理念」として語られる以前に、同様の営為が日本で行われていたことを解明したこと、です。特に は最近注目されている「フンボルト理念」の再検討の試みを支持するものです。

なお、『数学教育史研究』第17号は10月31日（火）に発行予定です。

（お問い合わせ先）

行政政策学類准教授 阪本 尚文

電話：024-548-8324

メール：n-sakamoto@ads.fukushima-u.ac.jp